

I 種試験等からの新規採用職員に対する アンケート調査の結果について

平成18年6月
人 事 院

人事院では、国家公務員採用 I 種試験等に合格して新たに採用された職員について、志望動機や公務に就くに当たっての意識などの就職意識を把握するため、アンケート調査を実施した。(平成18年4月5日～7日)

対象者は、第40回国家公務員合同初任研修の受講生679人で、そのうち回答のあった672人について集計し、調査結果を取りまとめた。

主な内容は次のとおりである。

— 調 査 結 果 の 概 要 —

○ **志望動機は「公務という仕事の中身を重視」**

国家公務員への志望動機は、「仕事にやりがいがある」、「公共のために仕事ができる」、「スケールの大きい仕事ができる」との回答が大半。「処遇面に期待する者」は少なく、「国民から尊敬される」を挙げる者はほとんどいない。(問1)

○ **民間企業との比較では「超過勤務(残業)」に対して厳しい評価**

「給与」、「勤務時間」は、「悪い方」との回答が5割を超え、「超過勤務(残業)」は、7割以上が「多い方」と回答。「福利厚生」は、「良い方」が5割を超える。「退職金」、「年金」は、「悪い方」と考えている者は少数。総合評価は、前年度を下回る。(問2)

○ **「公務は魅力がある」と考えている者がほとんど**

公務の魅力については、国民や政治との関係において公務の役割が変化しても、「質は変わったが依然として魅力がある」と考えている者が6割、「変わらず魅力がある」を含めると9割弱。(問3)

○ **「働きがい」を高めるには、「政策立案能力を高める」ことが必要**

「働きがい」を高める方策として、「政策立案能力を高める」との回答した者が4割強(法文系では5割強)。総じて個人の能力向上を重視する傾向にあるが、「勤務時間・休暇の改善」、「給与水準の改善」といった勤務条件の改善が必要と考える者も多い。(問4)

○ **「生活との調和を図る範囲で昇進を目指す」と考える者が5割**

将来の昇進については、「生活との調和が図れる範囲で昇進を目指したい」が5割、「できる限り昇進を目指したい」は2割。「事務次官」まで昇進できていると考えている者は20人に1人。(問5)

調 査 の 概 要

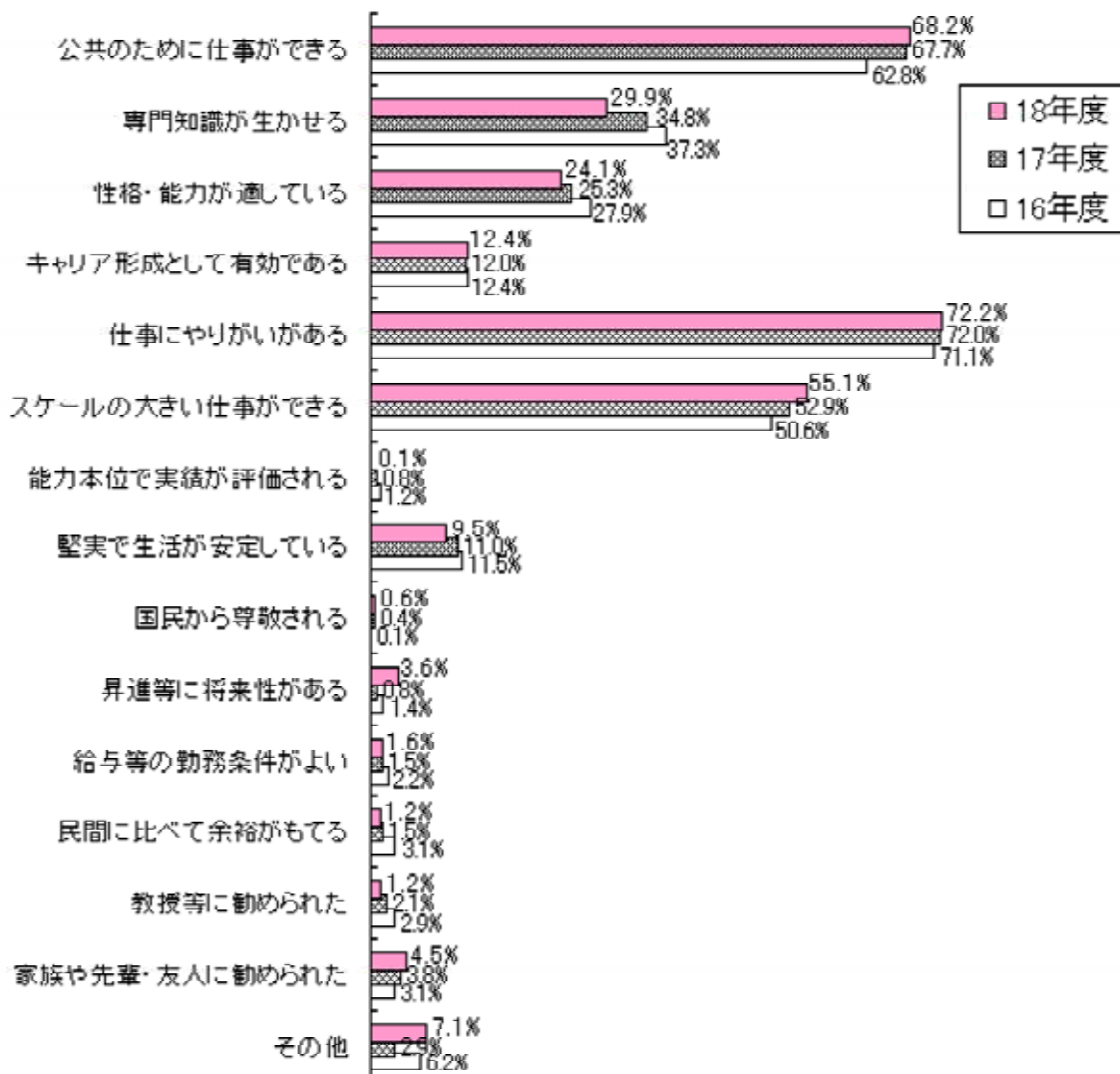
1	調査対象者	679人		
2	有効回答数	672人（回答率 99.0%）		
	試験別	国 家 I 種	602人	（構成比 89.6%）
		I 種試験に準ずる試験等	70人	（構成比 10.4%）

（注）説明文中、「法文系の職員」とは、試験区分が「行政」、「法律」、「経済」及び「人間科学」の者。「理工・農学系等の職員」とは、試験区分が「理工Ⅰ～Ⅳ」及び「農学Ⅰ～Ⅳ」等の者。

問1 国家公務員になろうとした主な理由は何ですか。（三つ選択）

「国家公務員を志望した動機」については、「仕事にやりがいがある」（1位）、「公共のために仕事ができる」（2位）、「スケールの大きい仕事ができる」（3位）と回答した者が大半を占め、公務という仕事の中身を重視していることが伺える。この順位は、ここ数年（平成11年から）同じ。

「給与等の勤務条件がよい」、「昇進等に将来性がある」などの処遇面に期待する者は少なく、また、「国民から尊敬される」を挙げる者はほとんどおらず、この傾向は従前から同じ。



問2 国家公務員の勤務条件等は、就職先を決めるときに考慮に入れた民間企業と比べてどのように思いますか。(各項目一つ選択)

「勤務条件等に関する国家公務員と民間企業との比較」については、「給与」、「勤務時間」は「悪い方」と回答する者が5割を超え、「超過勤務(残業)」に至っては7割以上の者が「多い方」と厳しい評価であった。

これらについて過去の調査結果を見ると、「給与」は、その時の経済事情によりその評価が変わって来ており、平成2年(1990年)(いわゆる「バブル時」)には「悪い方」との回答が8割を超えていたが、平成12年(2000年)には少し評価が上がり(「悪い方」:37.1%)、最近では徐々に評価が下がりつつある。「勤務時間」については「悪い方」、「超過勤務(残業)」については「多い方」との評価が定着しており、さらに年々評価が下がりつつある。

一方、「休暇」については、3割が「悪い方」と回答しているものの、「良い方」と「普通」を合わせると6割に達し、比較的评价が高い。

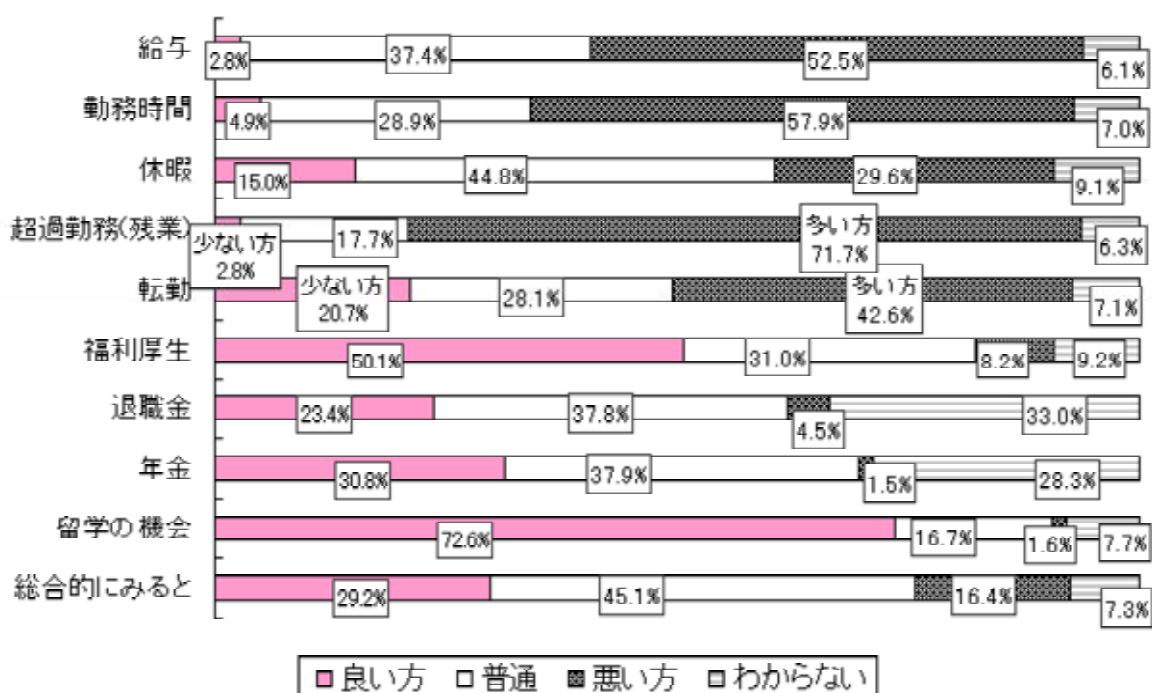
「転勤」については、例年4割以上の者が「多い方」と評価しているが、「少ない方」とする者も例年2割前後おり、その評価が分かれている。

「福利厚生」については、いわゆる「バブル時」には評価が低かった(「良い方」:17.3%)が、最近では「良い方」と評価する者が5割を超えている。

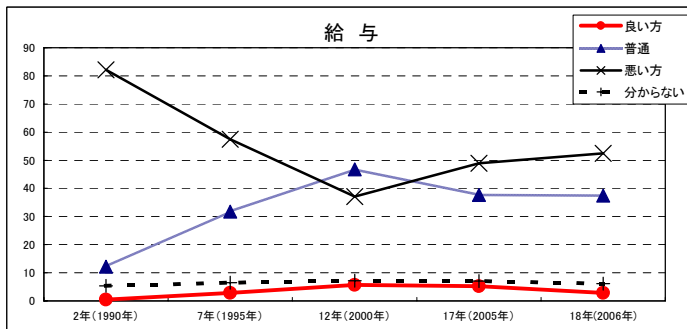
「退職金」、「年金」については、「分からない」と回答する者が3割前後存するものの、「悪い方」と考える者は非常に少なく、この傾向は以前から同じである。ただし、今年度は、前年度と比較して、「退職金」は「良い方」が29.2%から23.4%に、「年金」は「良い方」が38.3%から30.8%とそれぞれ評価が下がった。

「留学の機会」については、非常に高い評価を得ており、「悪い方」と評価する者はほとんどいない。

各項目に対する評価が分かれた結果となったが、総合的な評価は、「普通」と評価する者が約45%であり、この傾向は例年同じであるが、今年度は、前年度と比較して、「良い方」が35.2%から29.2%と評価が下がった。

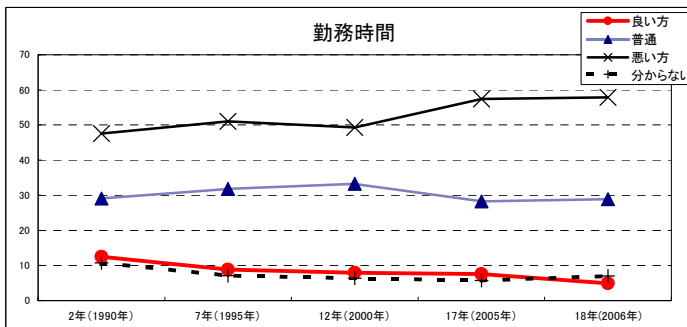


国家公務員の勤務条件等は民間企業と比べてどのように思うのか(過去との比較)



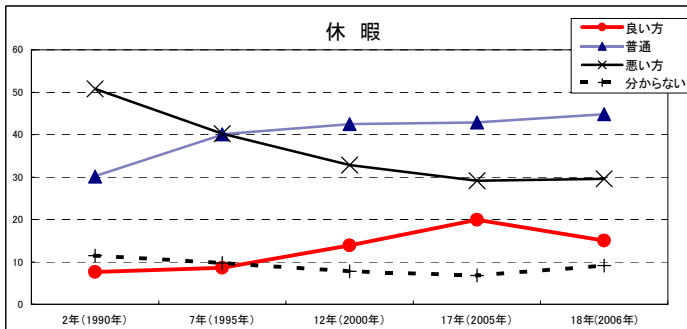
【給与】

	2年(1990年)	7年(1995年)	12年(2000年)	17年(2005年)	18年(2006年)
良い方	0.4	2.9	5.7	5.2	2.8
普通	12.2	31.7	46.8	37.7	37.4
悪い方	82.1	57.5	37.1	48.9	52.5
分からない	5.3	6.5	7.2	7.1	6.1
無回答		1.4	3.2	1.1	1.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



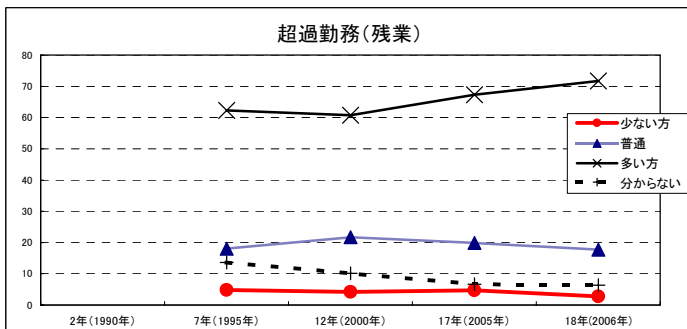
【勤務時間】

	2年(1990年)	7年(1995年)	12年(2000年)	17年(2005年)	18年(2006年)
良い方	12.5	8.8	7.9	7.6	4.9
普通	29.1	31.8	33.3	28.3	28.9
悪い方	47.6	51.0	49.3	57.4	57.9
分からない	10.8	7.1	6.4	5.7	7.0
無回答		1.3	3.1	1.0	1.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



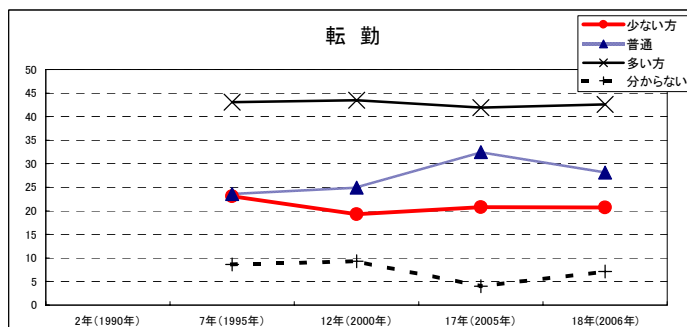
【休暇】

	2年(1990年)	7年(1995年)	12年(2000年)	17年(2005年)	18年(2006年)
良い方	7.6	8.6	13.9	19.9	15.0
普通	30.1	40.1	42.5	42.9	44.8
悪い方	50.8	40.2	32.8	29.1	29.6
分からない	11.5	9.7	7.8	6.8	9.1
無回答		1.3	3.1	1.3	1.5
計	100.0	99.9	100.1	100.0	100.0



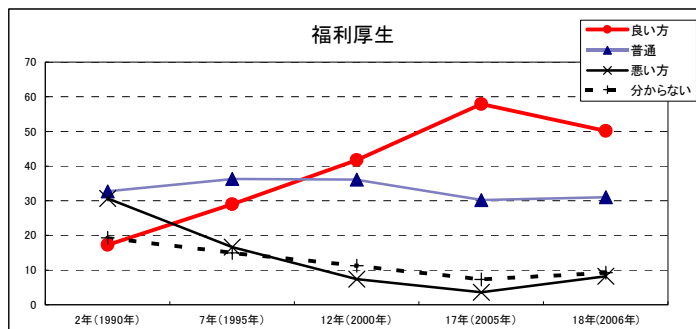
【超過勤務(残業)】

	2年(1990年)	7年(1995年)	12年(2000年)	17年(2005年)	18年(2006年)
少ない方	0.0	4.8	4.2	4.7	2.8
普通	18.0	21.7	19.9	17.7	17.7
多い方	62.3	60.7	67.3	71.7	71.7
分からない	13.6	10.1	6.7	6.3	6.3
無回答		1.3	3.3	1.4	1.5
計	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0



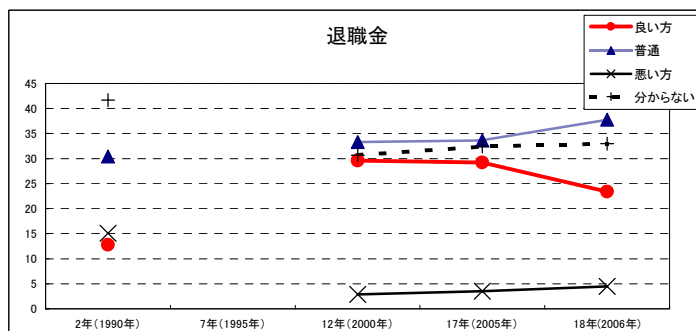
【転勤】

	2年(1990年)	7年(1995年)	12年(2000年)	17年(2005年)	18年(2006年)
少ない方	23.1	19.3	20.8	20.7	20.7
普通	23.6	24.9	32.5	28.1	28.1
多い方	43.1	43.5	41.9	42.6	42.6
分からない	8.6	9.3	4.0	7.1	7.1
無回答	1.5	3.1	0.8	1.5	1.5
計	0.0	99.9	100.1	100.0	100.0



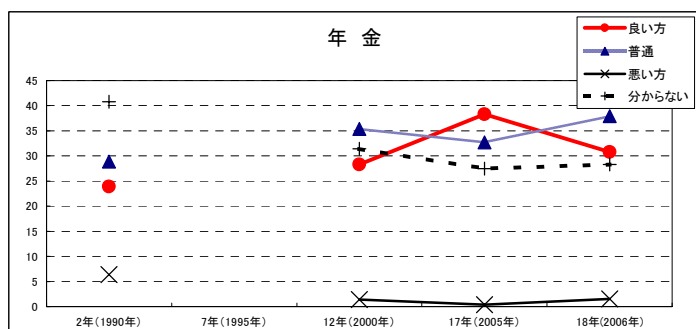
【福利厚生】 2年(1990年) 7年(1995年) 12年(2000年) 17年(2005年) 18年(2006年)

良い方	17.3	29.0	41.7	57.9	50.1
普通	32.7	36.3	36.1	30.2	31.0
悪い方	30.7	16.6	7.4	3.6	8.2
分からない	19.3	15.0	11.3	7.3	9.2
無回答		3.0	3.6	1.0	1.5
計	100.0	99.9	100.1	100.0	100.0



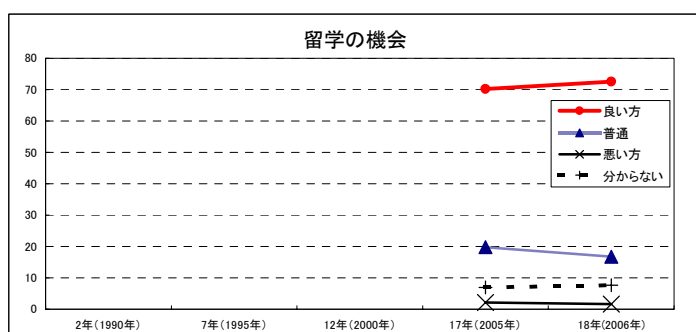
【退職金】 2年(1990年) 7年(1995年) 12年(2000年) 17年(2005年) 18年(2006年)

良い方	12.8		29.6	29.2	23.4
普通	30.4		33.3	33.6	37.8
悪い方	15.1		2.9	3.5	4.5
分からない	41.7		30.7	32.4	33.0
無回答			3.5	1.3	1.3
計	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0



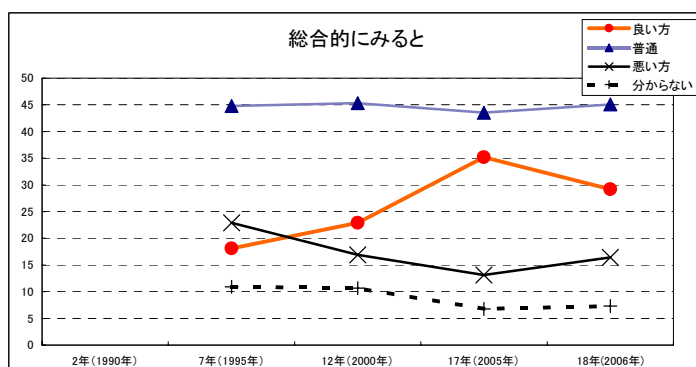
【年金】 2年(1990年) 7年(1995年) 12年(2000年) 17年(2005年) 18年(2006年)

良い方	23.9		28.3	38.3	30.8
普通	28.9		35.4	32.7	37.9
悪い方	6.4		1.4	0.4	1.5
分からない	40.8		31.4	27.5	28.3
無回答			3.5	1.1	1.5
計	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0



【留学の機会】 2年(1990年) 7年(1995年) 12年(2000年) 17年(2005年) 18年(2006年)

良い方				70.2	72.6
普通				19.8	16.7
悪い方				2.1	1.6
分からない				6.9	7.7
無回答				1.0	1.3
計	0.0	0.0	0.0	100.0	99.9



【総合的にみると 2年(1990年) 7年(1995年) 12年(2000年) 17年(2005年) 18年(2006年)

良い方		18.1	22.9	35.2	29.2
普通		44.8	45.3	43.5	45.1
悪い方		22.9	16.9	13.1	16.4
分からない		10.9	10.7	6.8	7.3
無回答		3.2	4.2	1.4	2.1
計	0.0	99.9	100.0	100.0	100.1

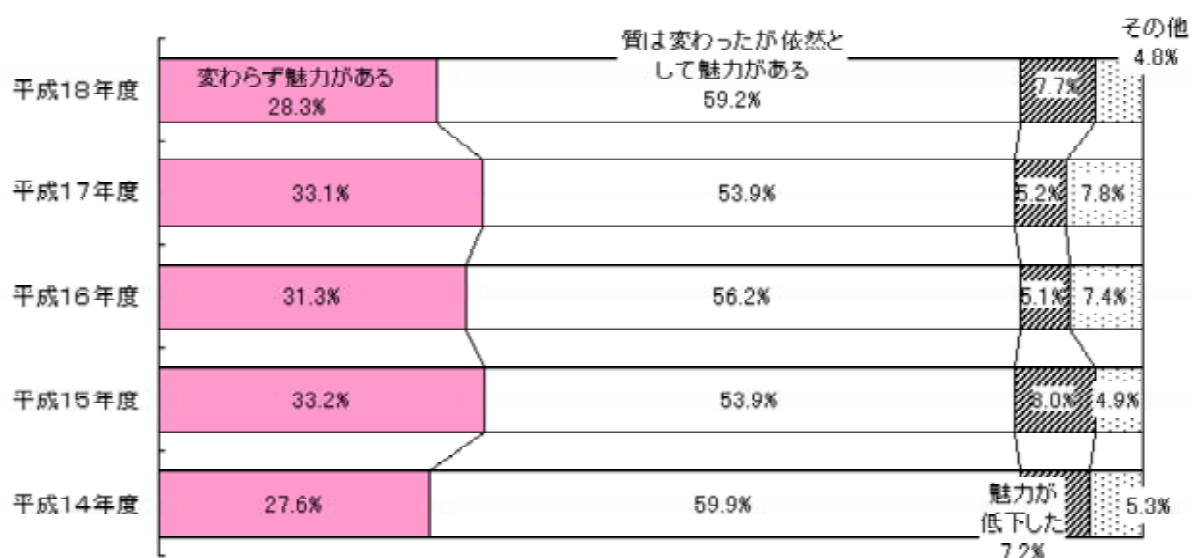
問3 国民や政治との関係において公務の役割が変化したことにより、公務の魅力は変わったと思いますか。

「公務の魅力」については、調査対象者からの評価は高く、「質は変わったが依然として魅力がある」と考えている者が6割、「変わらず魅力がある」が3割弱。平成14年度から全く同じ設問で調査を行っているが、この傾向は過去5年間ほとんど変わらない。

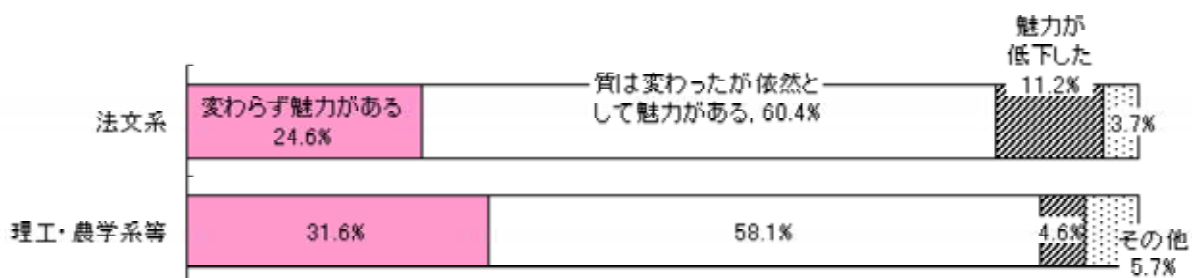
なお、法文系の職員では、理工・農学系等の職員（4.6%）の2倍以上の比率である1割以上（11.2%）が「魅力が低下した」と評価（前年度は、6.7%）。

「公務の魅力」について具体的に尋ねたところ、「国民・公共・社会・国のために仕事ができる」との趣旨の意見が大多数であり、次に「スケールの大きい仕事ができる」との趣旨の意見であった。

年度別比較



試験区分別比較(平成18年度)

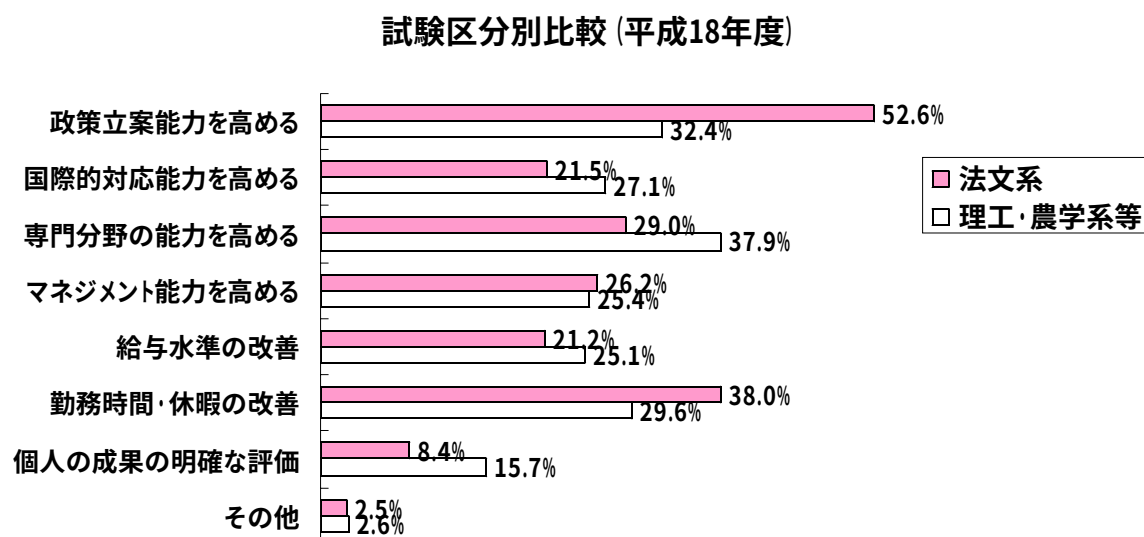
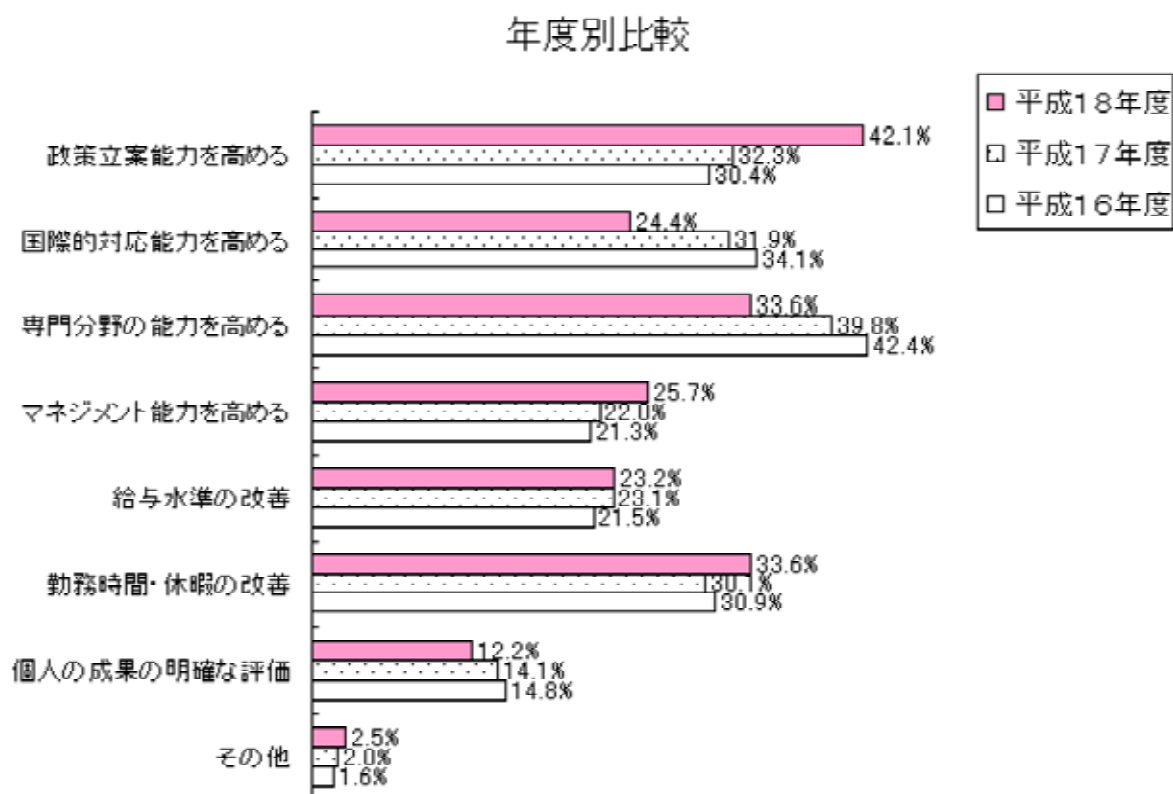


問4 あなたの「働きがい」を高めるために有効な方策は何だと思いますか。(二つ選択)

「働きがいを高めるための有効な方策」については、平成14年度から同じ設問の調査を行っているが、今年度の特徴は、「政策立案能力を高める」(42.1%)と回答した者が前年度と比較して約10%上昇、次いで、「専門分野の能力を高める」と「勤務時間・休暇の改善」(33.6%)が同じ。「国際的対応能力を高める」が24.4%となり、前年度と比較して7.5%減少した。

総じて個人の能力向上を重視する傾向にあるが、「勤務時間・休暇の改善」、「給与水準の改善」といった勤務条件の改善が必要と考える者も多い。

試験区分別の比較では、法文系の職員は、「政策立案能力を高める」(52.6%)と回答する者が5割を超えるが、理工・農学系等の職員では、「専門分野の能力を高める」(37.9%)が最も多かった。



問5 (1) 将来の昇進についてどのように考えていますか。
(2) 現実にとどこまで昇進できると思いますか。

「将来の昇進」については、過半数の者が「生活と調和が図れる範囲内で昇進を目指したい」と回答しており、昇進に関心を持ちながらも生活との調和を優先していることが伺える。

一方、「できる限り昇進を目指したい」(21.6%)と考えている者も5人に1人おり、法文系の職員に限れば24.9%で、理工・農学系等の職員(18.5%)と比べて多い。

「現実にとどこまで昇進できると思うか」については、半数以上が「分からない」と回答。ちなみに「事務次官」と回答した者は、5.4%で約20人に1人。

試験区分別の比較では、法文系の職員は、「事務次官」が6.5%、「本府省の局長」が18.7%との回答があり、理工・農学系等の職員(「事務次官」：4.3%、「本府省の局長」：8.7%)に比べて昇進への関心が高く、4人に1人が本府省の局長以上までの昇進を考えていることが伺える。

